

(様式第1号)

自己評価及び外部評価結果票

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4191500034		
法人名	有限会社 さくら苑		
事業所名	グループホーム さくら苑		
所在地	佐賀県西松浦郡有田町仏ノ原甲1254-2		
自己評価作成日	平成24年2月1日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigojohou-saga.jp/kaigosip/Top.do
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 佐賀県社会福祉協議会		
所在地	佐賀県佐賀市鬼丸町7番18号		
訪問調査日	平成24年2月24日	外部評価確定日	平成24年3月21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>自然や四季を、居ながらにして感じられる様に、窓を大きく取り、明るく開放的に保てるような施設作りを心掛けた。また、周りをバルコニーで囲み、いつでも戸外に居るような雰囲気味わえるような空間を設けている。緑あふれる中でゆったりと利用者様が過ごせるように、常に玄関前には季節の花を絶やさないようにしている。広い畑や花壇も確保し、草木や季節の野菜、果実、花など利用者様と育て、楽しめるような機会を作りたいと思っている。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>のどかな自然の中に建つホームである。隣接するホーム所有の畑は広く、今後は果樹などの栽培も予定されている。入居者は職員に見守られながら体力に応じて収穫作業も行っている。職員は入居者の細かい変化に気付くためにも出勤時や退勤時には一人ひとりと挨拶を交わしている。理念である「気くばりや目くばり、心くばり」という思いが日々のケアの中でも活かされている。</p>

自己評価および外部評価結果

【セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。】

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(桜館) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(秋桜館) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)		
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営							
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「気くばり」「目くばり」「心くばり」を基本とし、心に優しい介護と、一人ひとりのあるがままを大切にしたい気持ちを忘れないように、職員は毎朝の唱和や事業所内の掲示により意識付けしている、また、ミーティング等で常に確認し利用者様を中心とした介護を共有している。	「気くばり」「目くばり」「心くばり」を基本とし、心に優しい介護と、一人ひとりのあるがままを大切にしたい気持ちを忘れないように、職員は毎朝の唱和や事業所内の掲示により意識付けしている、また、ミーティング等で常に確認し利用者様を中心とした介護を共有している。	代表者の思いから生まれた理念は職員にも大切にされている。常に立ち返る原点として浸透しており、毎月の会議でも確認している。手を貸すだけでなく敢えて見守る姿勢の中にもそれが活かされていることが分かる。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	行事の時などには、地元ボランティアの方や保育園から慰問していただいたり、地域の行事等には積極的に参加し交流を心掛けている。	行事の時などには、地元ボランティアの方や保育園から慰問していただいたり、地域の行事等には積極的に参加し交流を心掛けている。	自治会に加入し、地区の行事や清掃活動などにも積極的に参加している。共に暮らす地域住民としての役割も考え、太陽光発電を備えていることから非常災害時の避難場所として事業所を開放できないか模索中である。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方や、家族の方等が気楽に立ち寄ってもらえるような声掛けと雰囲気作りに努め、来苑の際には、認知症の方への対応の相談に乗れるように努めている。	地域の方や、家族の方等が気楽に立ち寄ってもらえるような声掛けと雰囲気作りに努め、来苑の際には、認知症の方への対応の相談に乗れるように努めている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、家族や地区の老人会長、区長、民生委員、町の職員など幅広い立場の人に参加してもらい、ホームの活動や行事計画を報告したり、様々な立場からの意見交換が行われている。出された意見は、職員会議等で検討し運営に活かしている。	運営推進会議では、家族や地区の老人会長、区長、民生委員、町の職員など幅広い立場の人に参加してもらい、ホームの活動や行事計画を報告したり、様々な立場からの意見交換が行われている。出された意見は、職員会議等で検討し運営に活かしている。	運営推進会議は事業所からの報告だけでなくとどまらず双方向なものとなっている。町内で発生した老人に関わる事故では、皆で教訓を話し合い、そこから事業所として出来ることを具体的に考えている。メンバーの方々には協力者やモニター役となってもらえるよう努めている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	町の担当者とは、ホームの運営方法などの相談をしたり、状況を報告したりなどの関係が築かれている。また、包括支援センターで行われる居宅支援会議や勉強会に参加するなど協力関係が築かれている。	町の担当者とは、ホームの運営方法などの相談をしたり、状況を報告したりなどの関係が築かれている。また、包括支援センターで行われる居宅支援会議や勉強会に参加するなど協力関係が築かれている。	運営推進会議のメンバーでもあることから行政担当者とは日頃より顔なじみでもあり、実直に対応してもらえる関係が出来ている。また、町内のグループホーム同士の交流会を提案するなど積極的に連携を図っている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関する指針を作成し、職員は、身体拘束に関する研修会などに積極的に参加するなど、拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束に関する指針を作成し、職員は、身体拘束に関する研修会などに積極的に参加するなど、拘束をしないケアに取り組んでいる。	勉強会を実施し、職員の共有認識を図っている。玄関に施錠はなく、チャイムで知らせるセンサーはあるもののそれに頼ることはない。職員はさりげなく見守り、安全面に配慮しながら自由な暮らしを支えている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所で高齢者虐待防止マニュアルを作成し、研修会や、職員会議などで勉強する機会をもうけ、虐待の防止に努めている。	事業所で高齢者虐待防止マニュアルを作成し、研修会や、職員会議などで勉強する機会をもうけ、虐待の防止に努めている。			

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(桜館) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(秋桜館) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	包括支援センターの担当者との話し合う機会を持っている。あんしんサポートや成年後見人を活用し入居された利用者様がおられる。また、今後必要になれる利用者様についても相談をしている。	包括支援センターの担当者との話し合う機会を持っている。あんしんサポートや成年後見人を活用し入居された利用者様がおられる。また、今後必要になれる利用者様についても相談をしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、または改定時には、利用者様と家族には十分な話し合いのもと、納得された上で、契約、解約を行っている。また、疑問、質問などあるときには、いつでも相談できる事を伝え、契約書には相談窓口、担当者を明記している。	契約時、または改定時には、利用者様と家族には十分な話し合いのもと、納得された上で、契約、解約を行っている。また、疑問、質問などあるときには、いつでも相談できる事を伝え、契約書には相談窓口、担当者を明記している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様や家族の声には常に耳を傾け、相談しやすい環境作りに努めている。介護相談員を受け入れたり、玄関にはご意見箱を設置している。又、家族会を開催し、普段では聞けない意見や要望などが聞く事が出来た。意見要望などは職員会議で話し合い運営に活かしている。	利用者様や家族の声には常に耳を傾け、相談しやすい環境作りに努めている。介護相談員を受け入れたり、玄関にはご意見箱を設置している。又、家族会を開催し、普段では聞けない意見や要望などが聞く事が出来た。意見要望などは職員会議で話し合い運営に活かしている。	毎月の利用料を敢えてホームへ届けてもらい、家族との面談が増えるようにしている。また、初めて開いた家族会が有意義であったため、不定期ではあるが継続を決めている。出された意見は真摯に受け止め、サービスの質の向上へと繋げている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	役員会議、常勤会議、各ユニット会議、夜勤会議、給食会議、全体合同会議など、様々な立場の意見や提案を聞く機会を設けている。代表と管理者は全てに参加し運営の改善に努めている。又、個人面談を行うなど意見を出しやすい環境にも配慮している。	役員会議、常勤会議、各ユニット会議、夜勤会議、給食会議、全体合同会議など、様々な立場の意見や提案を聞く機会を設けている。代表と管理者は全てに参加し運営の改善に努めている。又、個人面談を行うなど意見を出しやすい環境にも配慮している。	会議の種類を増やしたことで少人数での開催となり、職員の意見などはまとめやすく短時間にもなっている。代表者や管理者は入居者の状況や実情を直に知っている職員の意見に耳を傾け活かそうと努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、定期的に職員の個人面談を行い、給与、労働時間、職場環境・条件などを話し合う機会を設けている。	代表者は、定期的に職員の個人面談を行い、給与、労働時間、職場環境・条件などを話し合う機会を設けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の経験や力量に合わせ、必要な職員には研修会に出席させている。研修会や講演会が開催される際には案内を出し参加を呼び掛けている。研修会や資格試験の時は勤務時間の調整をしている。	職員の経験や力量に合わせ、必要な職員には研修会に出席させている。研修会や講演会が開催される際には案内を出し参加を呼び掛けている。研修会や資格試験の時は勤務時間の調整をしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域内の、同業者施設を見学させてもらったり、勉強会に参加させてもらうなど、協力関係を築き、サービスの質の向上に努めている。	地域内の、同業者施設を見学させてもらったり、勉強会に参加させてもらうなど、協力関係を築き、サービスの質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(桜館) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(秋桜館) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)		
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援							
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスの利用を開始する段階で、ご本人の思いを大切にしながら安心していただける様、話を聴き理解を深めるように努めている。	サービスの利用を開始する段階で、ご本人の思いを大切にしながら安心していただける様、話を聴き理解を深めるように努めている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス開始時には、家族との話し合いの場を持つようにし、家族の方が安心して預けてもらえるように、ケース会議等でも十分に話し合いながら、信頼関係を築くようにしている。	サービス開始時には、家族との話し合いの場を持つようにし、家族の方が安心して預けてもらえるように、ケース会議等でも十分に話し合いながら、信頼関係を築くようにしている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス開始時には、管理者、ケアマネジャー、看護師など様々な立場から、家族や本人にとって何が必要かを話し合い、その時に応じたサービスの検討をしている。	サービス開始時には、管理者、ケアマネジャー、看護師など様々な立場から、家族や本人にとって何が必要かを話し合い、その時に応じたサービスの検討をしている。			
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の営みを大切にし、一緒に暮らしていく中で、共に生活していく環境作りに努めている。	本人の営みを大切にし、一緒に暮らしていく中で、共に生活していく環境作りに努めている。			
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族には、常に本人の状況を報告し、面会や外泊の時などには、家族がスムーズに対応できるように支援している。	家族には、常に本人の状況を報告し、面会や外泊の時などには、家族がスムーズに対応できるように支援している。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人が、以前暮らされていた場所を訪問したり、馴染みの店で買い物をするなど、又、家族や知人に、葉書や年賀状などを送る支援をしている。	本人が、以前暮らされていた場所を訪問したり、馴染みの店で買い物をするなど、又、家族や知人に、葉書や年賀状などを送る支援をしている。	本人がこれまで培ってきた馴染みの関係などを把握し、関係を継続できるよう支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共通の話題などを常に考え、皆で話題を選び、共に支え合える喜びを、一緒に楽しめるような支援作りに努めている。	共通の話題などを常に考え、皆で話題を選び、共に支え合える喜びを、一緒に楽しめるような支援作りに努めている。			

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(桜館) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(秋桜館) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了時には、これで終わりではなく、いつでも相談や支援が出来る関係を保つようにしている。	サービス終了時には、これで終わりではなく、いつでも相談や支援が出来る関係を保つようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	職員は、必ず利用者様一人ひとりと、挨拶を交わし、その日の、本人の状態を感じ取り、状態に合った対応を心掛けている。又、困難な場合は、職員が本人の立場ならどう思うかなど、本人本位の対応に努めている。	職員は、必ず利用者様一人ひとりと、挨拶を交わし、その日の、本人の状態を感じ取り、状態に合った対応を心掛けている。又、困難な場合は、職員が本人の立場ならどう思うかなど、本人本位の対応に努めている。	日々の関わりの中で声を掛けることから始め、思いや意向の把握に努めている。言葉や表情などから真意が推し測れるように職員は日頃の観察を怠らない。意思疎通が難しい場合には、家族などからも情報を得るようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ケース会議やミーティング等で、サービス内容の確認、変更、経過など職員全体で把握することに努めている。	ケース会議やミーティング等で、サービス内容の確認、変更、経過など職員全体で把握することに努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの行動を常に見守り、介助する中で、精神的不安や、体調の変化にすばやく気づくように努めている。	一人ひとりの行動を常に見守り、介助する中で、精神的不安や、体調の変化にすばやく気づくように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	管理者、ケアマネ、看護師、常勤、非常勤、夜勤者など、会議では様々な立場からの意見を出し合い、主治医の意見も聞き、家族と相談しながら、介護計画を作成している。	管理者、ケアマネ、看護師、常勤、非常勤、夜勤者など、会議では様々な立場からの意見を出し合い、主治医の意見も聞き、家族と相談しながら、介護計画を作成している。	本人や家族には日々の関わりの中で思いや意見を聞き、暮らしを反映した介護計画となっている。計画の見直しは設定期間に捉われず、変化があれば臨機応変に対応している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者一人ひとりの日々の様子、身体状況を介護計画にそって個別の記録、記入をし、スタッフが計画、記録の内容を常に把握出来るようにしている。	入居者一人ひとりの日々の様子、身体状況を介護計画にそって個別の記録、記入をし、スタッフが計画、記録の内容を常に把握出来るようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	両ユニット間の交流や、法人内にあるデイサービスとの交流、その時に合った地域との交流や外出、買い物など、ニーズに合った対応をしている。	両ユニット間の交流や、法人内にあるデイサービスとの交流、その時に合った地域との交流や外出、買い物など、ニーズに合った対応をしている。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(桜館) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(秋桜館) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	外出時などは、予めその場所の下見を行い、安全を確保出来るか検討し、その資源の中で本人の力で楽しむことができるように支援している。	外出時などは、予めその場所の下見を行い、安全を確保出来るか検討し、その資源の中で本人の力で楽しむことができるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診が必要と判断した場合はご家族と本人に状態を説明し、かかりつけ医に連絡、受診又は往診を依頼している。	受診が必要と判断した場合はご家族と本人に状態を説明し、かかりつけ医に連絡、受診又は往診を依頼している。	入居後も、本人の今までのかかりつけ医の受診を支援している。必要に応じて受診の付き添いや家族とも同行し、普段の様子や変化を伝えるようにしている。最近では職員のみが付き添うケースが増えているが、当日中には結果報告をしている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常に状態の変化など報告により要観察、再検、受診など必要な対応が出来る。	日常に状態の変化など報告により要観察、再検、受診など必要な対応が出来る。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関との連携で入院など迅速に対応できている。又、退院後の生活など医療機関とも話し合いスムーズな退院に心がけている。	医療機関との連携で入院など迅速に対応できている。又、退院後の生活など医療機関とも話し合いスムーズな退院に心がけている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合については、今後に向けての方針を共有するため、ご家族、かかりつけ医と話し合いの場を設けている。ホームで出来る事、出来ない事を説明し、状況に応じて話し合いを行っている。	重度化した場合については、今後に向けての方針を共有するため、ご家族、かかりつけ医と話し合いの場を設けている。ホームで出来る事、出来ない事を説明し、状況に応じて話し合いを行っている。	これまでに看取りの経験はない。重度化した場合は事業所が対応し得る最大限のケアについて説明しながら、家族とは何度も話し合いを重ねるようにしている。本人や家族が安心して納得した最期を迎えられるよう、その都度、意思を確認しながら取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時や、事故発生時などの対応を検討し、会議などで確認している。又、消防署より救急救命士の方に来苑していただき、救急救命の講習を行ったり、心肺蘇生の外部研修に参加するなど、定期的に訓練を行っている。	緊急時や、事故発生時などの対応を検討し、会議などで確認している。又、消防署より救急救命士の方に来苑していただき、救急救命の講習を行ったり、心肺蘇生の外部研修に参加するなど、定期的に訓練を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の立会いのもと、全職員が参加して年に2回の避難訓練を行っている。1回は夜の時間帯での訓練を行うなど、様々な想定で訓練を行っている。又、近隣の方をお願いをして協力を得られる体制を整えている。	消防署の立会いのもと、全職員が参加して年に2回の避難訓練を行っている。1回は夜の時間帯での訓練を行うなど、様々な想定で訓練を行っている。又、近隣の方をお願いをして協力を得られる体制を整えている。	屋間だけではなく、夜間にも訓練を行っている。両手を自由にするため灯りはヘッドライトを装着することなど様々な気付きを実行している。非常食も3日分程は備えている。地域の協力体制については運営推進会議でも呼びかけをしている。	

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(桜館) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(秋桜館) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)		
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援							
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	会議では常に、利用者様の立場に立った言葉かけや対応について話し合い、穏やかで丁寧な言葉かけに心がけている。又、個人情報利用やプライバシー保護のマニュアルを作成し、入居の際には説明と同意を得ている。	会議では常に、利用者様の立場に立った言葉かけや対応について話し合い、穏やかで丁寧な言葉かけに心がけている。又、個人情報利用やプライバシー保護のマニュアルを作成し、入居の際には説明と同意を得ている。	年長者として敬意を払い、援助が必要な時まずは本人の気持ちを大切に考え、さりげないケアを心掛けている。また、入居者の守るべき情報についても責任ある取り扱いと管理を徹底している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人との対話は、許す限り話を聞くように心がけている。自分で決定された事は尊重して、希望に添った支援、利用者様中心のケアを心がけている。	本人との対話は、許す限り話を聞くように心がけている。自分で決定された事は尊重して、希望に添った支援、利用者様中心のケアを心がけている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様の、介護度、認知度等を把握し、安全を確認したうえで、出来る限り希望に添えるように支援している。	利用者様の、介護度、認知度等を把握し、安全を確認したうえで、出来る限り希望に添えるように支援している。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	職員と一緒に、着るものを選んだり、買い物に行くなど本人の好みに合った支援をしている。又、行事の時などは、着物を着たり、化粧をするなど、季節に応じたおしゃれにも取り組んでいる。	職員と一緒に、着るものを選んだり、買い物に行くなど本人の好みに合った支援をしている。又、行事の時などは、着物を着たり、化粧をするなど、季節に応じたおしゃれにも取り組んでいる。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者が、職員と一緒に野菜の下ごしらえや、後片付けなどを自然と手伝えるように支援している。又、職員が利用者と一緒に同じ物を食べ、利用者と一緒に楽しみながら食事をしている。	利用者が、職員と一緒に野菜の下ごしらえや、後片付けなどを自然と手伝えるように支援している。又、職員が利用者と一緒に同じ物を食べ、利用者と一緒に楽しみながら食事をしている。	入居者は、食事一連の作業の中でそれぞれが出来ることをごく自然に手伝っている。隣接する畑からは季節の野菜も採れ、食事中の話題にもなっている。職員も一緒に同じ食事をしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎月給食会議を行い、食事の量、食べやすい大きさ、栄養バランス、水分の量などを検討し、一人ひとりの状態に応じた食事の提供に努めている。又、言語療法士による食事介助の勉強会を開き、食事の時の姿勢や介助の方法などにも気を配っている。	毎月給食会議を行い、食事の量、食べやすい大きさ、栄養バランス、水分の量などを検討し、一人ひとりの状態に応じた食事の提供に努めている。又、言語療法士による食事介助の勉強会を開き、食事の時の姿勢や介助の方法などにも気を配っている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人ひとりの状態に応じた声掛け、一部介助、全介助を行い、口腔内の清潔保持に努めている。又、必要に応じ歯科医師の往診による指導を受けている。	毎食後、一人ひとりの状態に応じた声掛け、一部介助、全介助を行い、口腔内の清潔保持に努めている。又、必要に応じ歯科医師の往診による指導を受けている。			

自己	外部	項目	自己評価/ユニットA(桜館) (事業所記入欄)	自己評価/ユニットB(秋桜館) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	本人の生活リズムを把握し、プライバシーに配慮した声かけや、対応に心がけている。又、自立での排泄する支援に努め、おむつから布パンツへ戻す支援も行っている。	本人の生活リズムを把握し、プライバシーに配慮した声かけや、対応に心がけている。又、自立での排泄する支援に努め、おむつから布パンツへ戻す支援も行っている。	トイレでの排泄を可能にするために本人の生活リズムにそった支援を行っている。自尊心に配慮しながら身体機能に応じて手を貸したり、また敢えて見守ったりしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	利用者の状態によっては、主治医や看護師と相談し服薬の調整も行っているが、食事の工夫や、水分摂取、運動や歩行訓練など、自然に排便ができるように支援している。	利用者の状態によっては、主治医や看護師と相談し服薬の調整も行っているが、食事の工夫や、水分摂取、運動や歩行訓練など、自然に排便ができるように支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	毎日、両ユニットのどちらかで入浴が出来るようにし、安全に配慮し昼間にはなるが、なるべく希望に添えるよう支援している。又、一人ひとりの状態に応じたプライバシーに配慮した介助や、自立に向けた介助を心がけている。	毎日、両ユニットのどちらかで入浴が出来るようにし、安全に配慮し昼間にはなるが、なるべく希望に添えるよう支援している。又、一人ひとりの状態に応じたプライバシーに配慮した介助や、自立に向けた介助を心がけている。	希望すれば毎日の入浴でも可能だが時間帯は昼間となっている。浴槽に浸かりたい方には、介助職員を増やして対応している。入浴時の羞恥心などにも配慮し、無理強いすることなく、入居者が寛いだ気分で入浴できるように支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣を把握し、希望により昼寝や、休息の支援を行っている。夜間は安心して眠れるように、言葉かけや環境に配慮し、服薬をしなくても気持ちよく休まれるような支援を心がけている。	一人ひとりの生活習慣を把握し、希望により昼寝や、休息の支援を行っている。夜間は安心して眠れるように、言葉かけや環境に配慮し、服薬をしなくても気持ちよく休まれるような支援を心がけている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の情報は個人ケースにファイルして職員がいつも確認できるようにしている。主治医、看護師と常に意思交換し本人に合わせた薬の調整を行っている。	服薬の情報は個人ケースにファイルして職員がいつも確認できるようにしている。主治医、看護師と常に意思交換し本人に合わせた薬の調整を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の生活の中で、個々の能力に合わせた役割を見つけ、役割を持つことで張り合いのある生活が送れるように支援している。又、地域のボランティアを積極的に受け入れ一緒に楽しむなどの支援もしている。	日々の生活の中で、個々の能力に合わせた役割を見つけ、役割を持つことで張り合いのある生活が送れるように支援している。又、地域のボランティアを積極的に受け入れ一緒に楽しむなどの支援もしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望に添って、散歩、買い物、外食や、季節に応じた花見や紅葉狩りなどの外出を支援している。又、外出できない季節などは、出張喫茶ボランティアに来てもらい外食をしているような雰囲気を楽しんでもらっている。	希望に添って、散歩、買い物、外食や、季節に応じた花見や紅葉狩りなどの外出を支援している。又、外出できない季節などは、出張喫茶ボランティアに来てもらい外食をしているような雰囲気を楽しんでもらっている。	入居者が事業所の中だけで過ごすことがないようにという代表者の思いもあり、日常的には両ユニット間や隣接するデイサービス施設を訪ねたりしている。天候や季節によっては車での外出もある。建物の外側に廻らされたウッドデッキは格好の散歩コースとなり、高台に建っているため眺めも良い場所となっている。	

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(桜館) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(秋桜館) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物などの機会は少ないが、本人がお金の大切さを理解してもらい、希望に応じて使える様支援している。	本人の希望や、能力に応じ、少額のお金を所持されている。移動パン屋さんを受けいれたり、一緒に買い物へ行き、自分で買い物をする支援に取り組んでいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族に協力してもらい、本人が電話をしたい時に出来るよう支援している。また、年賀状や手紙などを送る支援をしている。出来ない利用者は、職員と一緒に作成している。	年賀状など、希望される相手にハガキを出している。要望があれば自由に電話したり、携帯電話を所持されている利用者様は自由に電話をされている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は、不快にならないように毎日掃除したり、生活や季節に合ったちぎり絵や、貼り絵などを、利用者様と一緒に作成し飾りつけをしている。又、ホールは木の温もりがあり、窓を広く設け、自然の光を多く取り入れたり、草花を見て季節を感じられるようにしている。	共用の空間は、不快にならないように毎日掃除したり、生活や季節に合ったちぎり絵や、貼り絵などを、利用者様と一緒に作成し飾りつけをしている。又、ホールは木の温もりがあり、窓を広く設け、自然の光を多く取り入れたり、草花を見て季節を感じられるようにしている。	ホールには季節を感じられるように貼り絵や花が飾られている。廊下も歩行の妨げになるような調度品はなく事業所内はどこも清潔に掃除され、臭気も全くない。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホール内は、ソファや和室があり、ソファでテレビを見られたり疲れたら和室で休まれるようにしている。天気の良い日には、テラスへ出て歌を唄ったり、おやつを食べたりして頂いている。	ホール内は、ソファや和室があり、ソファでテレビを見られたり疲れたら和室で休まれるようにしている。天気の良い日には、テラスへ出て歌を唄ったり、おやつを食べたりして頂いている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は自由に使われ、自分で塗られたカレンダーを貼ったり、家族の写真を飾ったりされている。テーブルや家具、テレビなどを持ち込まれている利用者もおられ、本人が安心して暮らせるような支援をしている。	居室は自由に使われ、自分で塗られたカレンダーを貼ったり、家族の写真を飾ったりされている。テーブルや家具、テレビなどを持ち込まれている利用者もおられ、本人が安心して暮らせるような支援をしている。	居室には使い慣れた馴染みの物が持ち込まれている。位牌を置いている方には、毎朝職員が水を供えている。なによりも本人が安心して居心地よく過ごせるように、支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全には配慮して、建物内は動きやすい作りにし、自立した生活が出来るように工夫している。	毎月、職員と利用者様が協力しカレンダーを作成したり、書道や絵、個人の得意分野に分かれ作業をしていたりしている。		

V. サービスの成果に関する項目(目標指標項目)アウトカム項目)(事業所記入)				
※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します				
項 目		取 り 組 み の 成 果		
		ユニットA	ユニットB	
↓ 該当するものに○印をつけてください				
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目:23,24,25)	○	○	1. ほぼ全ての利用者の
				2. 利用者の2/3くらいの
				3. 利用者の1/3くらいの
				4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目:18,38)	○	○	1. 毎日ある
				2. 数日に1回程度ある
				3. たまにある
				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目:38)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目:36,37)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目:49)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている。 (参考項目:30,31)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない

項 目		取 り 組 み の 成 果		
		ユニットA	ユニットB	
		↓ 該当するものに○印をつけてください		
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目:28)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目:9,10,19)	○	○	1. ほぼ全ての家族と
				2. 家族の2/3くらいと
				3. 家族の1/3くらいと
				4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目:2,20)	○	○	1. ほぼ毎日のように
				2. 数日に1回程度ある
				3. たまに
				4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目:4)	○	○	1. 大いに増えている
				2. 少しずつ増えている
				3. あまり増えていない
				4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目:11,12)	○	○	1. ほぼ全ての職員が
				2. 職員の2/3くらいが
				3. 職員の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	○	1. ほぼ全ての家族等が
				2. 家族等の2/3くらいが
				3. 家族等の1/3くらいが
				4. ほとんどいない